

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	平成30年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ケアネット徳洲会の理念を基にした運営をしております。職員はご本人の残存機能を活かした時間の提供や、出来る事、やりたい事、その人らしい生活の支援をするための情報収集、情報共有をし、体制を作っております。管理者は入居者様の笑顔を大切に考えています。この数年で多数の職員の入れ替えがありました。施設には新しい風が吹き出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時の平成18年から継続して勤務する2名の職員を始め、ベテラン職員が中心となって運営している。しかし、ここ数年で、職員の半数の入替があり、職員のレベルアップが喫緊の課題となっており、その為、毎月1回全員参加の研修を実施している。本年度の実施テーマは、認知症勉強会、非常災害への対応、高齢者虐待防止、プライバシー保護などで、欠席者も含め職員全員にレポートの提出を義務付けている。このような努力の積み重ねにより、開設13年目のホームにまた新しい風が吹き込まれるものと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の1/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼ではケアネット徳洲会の理念、スローガンを唱和し、理念に基づくケアを心掛けている。	理念を事務室の他、個人の名札の裏にも印刷し、徹底を図っている。また、7つの理念の実行方法の内、「入居者様からの贈り物は一切受け取りません」のポスターを数か所掲示し、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、地域包括支援センターの方、地域住民、民生委員、ご家族様の参加がある。年に一度は地域の方との防災訓練を実施している。	町会に加入し、桜まつり、夏祭り、敬老会、夜間のパトロールにも積極的に参加している。数年前の近隣小学生の誘拐事件発生により、小学校との交流は中止となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事、地域ケア会議へはできるだけ参加し、地域の方との交流や施設のアピールをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。参加依頼・議事録は全てのご家族様へ送付しており、数多くのご意見を頂いている。会議内での意見をもとに施設内で検討し関わりを見直している。	行政や地域包括支援センター、民生委員、町会長、家族の出席者により、2ヶ月に1回開催し、議事録も作成している。8月には、事例発表も行い、更に施設への理解を深めて頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政及び包括支援センターとは、密に連絡を取っている。不明な事、手続きなどを不備のないように教えて頂いている。介護相談員は、月1回、入居者様の相談に見えている。	松戸市介護保険課と生活支援課からの指導、介護相談員の月1回の来訪、時には行政も参加するグループホーム連絡会などとの連携を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わない方針である。やむを得ず行う時は手続きをする。現在、足元センサー使用の方も会社の方針で手続きを取り使用している。	虐待防止・身体拘束に関わるマニュアルを作成、身体拘束適正化検討委員会を6月以降、毎月全員参加により実施し、正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加をし、全職員に共通理解を深めている。又、日頃のケア時に疑い傷など見られた場合には直ちに報告するよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては内部研修で取り上げ、全職員へ伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、ご家族様・入居者様に対し説明・納得をして頂いたうえで、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂いたら、報告・話し合いをし、ケアプランに反映している。又、意向に沿えるように心がけている。	毎月、家族あてに利用料の請求書・領収書と一緒に、運営推進会議への出席依頼と前回の議事録を送付し、面会や家族会での来訪時に意見を伺う様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議では意見交換や事故報告書の共有、業務改善の話し合いを行っている。	意見や要望を聞く機会としては、月1回の全体会議、2ヶ月に1回開催のフロア会議の他、こまめに報告されている「ヒヤリ・ハット事故報告書」の回覧などを通じて実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の、業務に関する担当を割り当て責任を持ってもらえるようにしている。出来ていない部分も多いがそれぞれの評価にしている。職員の希望休は極力答えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは中々参加できていない。内部研修は各項目について調べ考えまとめて発表する機会を与えるために全員がリーダーを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域ケア会議等での交流があるがその他の職員は交流の機会は一切ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者様には少しでも早くホームでの生活に、慣れて頂けるように、傾聴し不安を減らすように心掛けています。又、職員間においては、その方の情報を共有しケアにつなげられるよう促している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに電話連絡をし、不安な点や、疑問点などに答えられる体制をとっている。又、面会時時は、近況報告をし、安心して頂けるように努めている。月1回、ご様子のお手紙を出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様のアセスメントをし、それを基にケアプランを作成している。残存機能維持の為にリハビリを提案、ご紹介し行っている方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員へはケアをさせて頂いているという気持ちを持ってほしいと伝えてきている。まだ全員が出来ているとは思えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へはケアに参加して頂けるよう相談し参加して頂いている方もおられる。今後も参加して頂けるようなプランを作成していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人・知人の方が面会に来られる方もおります。	知人・教え子等、来訪される方には寛いで頂ける雰囲気づくりや、家族とのお墓参りなど支援している。初詣・七夕・夏祭り等の行事を実施し、また職員手作りの上掛けを纏いお雛様に変身していただいたり、月見団子を作ったり懐かしさの追体験等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は生活に於いて重要だと考えている。気の合う方との時間を過ごして頂けるよう、フロア移動や座席は気を遣っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年度退去の方は他界されている為、行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様別に、担当職員を決めている。普段の生活や会話・表情などあらゆる場面から、情報を汲み取り、全職員で共有している。それを、ケアプランに反映している。	入居時の情報提供や家族からの話、日常の本人の会話や表情・行動等から思いの把握に努めている。本人の思う出来そうなことはまず、「やってみて」、そして「やった！」の職員の気づきと本人の思いの実現があり、それらを介護計画に反映させ、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや、情報提供書を基に把握し、全職員で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録とは別に、個別の記録表を活用している。読んだ職員は新情報を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを実施、状態変化時はカンファレンスを行い家族へも相談後、ケアプランの変更や介護保険の区分変更を行っている。	本人の意向や職員の意見、毎日の介護記録・個別記録表等を基に月1回のモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。状態変化時はカンファレンスを行い家族に相談後、介護計画の変更や区分変更申請を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違う行動、言動があった時、その方の注意すべき点や気づき、ケア方法の変更や医療上の指示等を記入する個別送り書を介護記録とは分けて使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と思われる方へは訪問マッサージ、訪問リハビリを希望される方へ、紹介を行っている。又、月1回、美容師が訪問し、希望者にカットを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩時にご挨拶を心掛けている。備品の買い出しなどには入居者様と出かけることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医がお一人月2回の往診で日曜日以外は毎日往診に来られるので何かあればすぐに相談し診ていただけます。夜間や、休日でも24時間の対応を行っている。	ひとり月2回の受診があり、医師は日曜以外は毎日来所している。不測の事態にはすぐに相談や診察可能で、24Hオンコール対応もしている。週1回の訪問看護師・訪問歯科の他、希望者には訪問マッサージ・リハビリを紹介している。また併設デイサービスの看護師の協力を得る時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションよりNs.は週1回の訪問、入居者様の健康チェックや介護職では行うことが出来ない処置を行っていただいている。平日の日中はデイサービスのNs.に協力頂く事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの総合病院と連携を図り、急変時のスムーズな受け入れ体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施している。現在も、医師、Ns.家族の協力を得て看取りケアをさせて頂いています。看取りの内部研修は年2回行っている。看取り用のマニュアルと記録用紙も整備した。	入居時に事業所指針を説明している。重度化や終末期にホームでの見取りを希望される方とは、「同意書」を交わし可能な限りホームで対応している。現在3人の方の看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の方を講師として招き、救命救急訓練を定期的実施している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練・消火活動を実施。又、夜間帯・日勤帯を想定し、避難訓練を実施している。	年2回の消防署指導の避難訓練を実施し、利用者も出来る方は訓練に参加している。また消防署から2回程感謝状を受けている。近隣の数軒に緊急時の協力をお願いしている。水・缶詰・アルファ米・おむつ等の備蓄と、AEDの備えがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用禁止用語を傳達しているが、出来ている者と出来ない者に別れる。	トイレや入浴介助の際は声掛けやプライバシーに配慮した対応に努めている。本人の人格を尊重し心地よく過ごして頂ける様、命令口調・威圧的態度・否定的な言葉遣いはしない等、詳細な行動基準が定められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事を行って頂けるよう、その方に合った作業を提供しているが、その方の出来る事がやりたい事なのかは不明。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事を行って頂けるよう、その方に合った作業を提供している。職員不足の為、業務優先になりがちではある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る入居者様は、ご自分で衣類を選べる環境を整えている。又、出来ない入居者様については、職員が季節・環境等に配慮しながら選び整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方へは下ごしらえ、片付けを一緒にやっている。個別の留意事項はキッチンに張り出している。	下膳の出来る方や、食事介助の方もあり、状態に合わせた食事が提供されている。お寿司の好きな方が多いので外食回数を増やしたり、時には皆で団子作りをしたり、食べる楽しみを支援している。今後は1食分を外注化し、本人との触れ合いの時間を、より充実させていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、食事量・形状を工夫し、チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。訪問歯科医の受診を行い、アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じた対応を行っている。基本はトイレでの排泄。それぞれの排泄パターンを把握し誘導を実施している。	トイレでの排泄を基本に、布パンツやリハビリパンツ・おむつ使用など、排泄パターンを把握してそれぞれの状況に合わせた対応・声掛けや、見守り・排泄後の確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘や下痢のないようにしている。下剤は医師の許可のもと、施設内で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は職員都合になりがちである。入居者様には合わせられていない。現在、夕刻の入浴希望の方はおられない。	ひとり週2～3回の入浴で一日2～3人の入浴介助を行っており、元日以外は毎日が入浴日になっている。リフト浴の方も数名おり、室温にも配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は各フロア1人で対応している。安心して休んでいただけるよう温度、湿度管理を行っている。日中も個々に応じ休める環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの状態に応じて、医師と相談して、服薬の変更を行っている。副作用については職員が把握しているかは不明。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人で過ごされたい方もおられる。そのお気持ちは尊重し、無理にリビングへはお誘いはしていない。(声はかけさせて頂いている)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、散歩の支援を行っている。日用品の買物など、入居者様と一緒に掛けることもある。ウッドデッキの活用も出来ている。	天候の良い日はなるべく散歩に出られるようにしている。買物時には、利用者と一緒に掛けることもある。遠出は年々困難になっており、花見には近くの桜並木を車窓から楽しんだり、外気浴を兼ねウッドデッキで歌を歌ったりお茶をしたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、施設長が行っている。買いたい物を要求される方は居られないが、いつでも使用できる様、個人の預かり金の管理は出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご友人や親戚からハガキ・手紙が届く入居者様もおられる。携帯電話をもたれている入居者様もおられ、定期的に連絡をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は入居者様の作品やイベント時の写真を飾っている。季節の造花を活用し、季節感を出すよう心掛けている。	廊下・居間等の共用の空間は広目でゆったりし、壁面には行事の写真や作品ががたくさん掲示されている。ホーム内は居心地よくきれいに掃除されており、「いつも清潔できれい」「明るい」「いつ伺っても温かい雰囲気」などの声が、家族アンケートに複数寄せられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方は、気の合う方を見つけ、お話をされている。又、仲間作りの声掛けなどを、職員が行う事もある。お1人の時間も大切に、自由に生活出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物を持って来て頂いている方もおられる。ご家族様が、ご本人の居心地の良いスペースを作って下さる。作った作品を、居室に飾られている方もおられる。	使い慣れた小物やタンス等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配置している。作品や人形など並べられ、また百寿者の居室は表彰状が飾られている。日中は居間に集う方が多く、その間に換気や、布団・ベッドマットを上げ、寝具の乾燥等衛生管理にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアを歩きたい方は自由に歩かれる為、安全に配慮した、物の配置等にも、気を配っている。自分の家(部屋)と思って頂けるように、常に心掛けている。		